



アルツハイマー病の早期発見と治療

アルツハイマー病とは、脳の神経細胞が障害されて脳が委縮する病気です。認知症の原因のなかで最も多いのがこのアルツハイマー病で、全体の4割以上を占めていると考えられています。健康な人の脳と比べると、アルツハイマー病の人の脳は小さく委縮しています。「海馬」という記憶を司る部位が委縮するのも特徴です。海馬が委縮して機能が低下してくると、記憶することができなくなると考えられています。

・アルツハイマー病の症状

アルツハイマー病の初期には、少し前の記憶がなくなるという症状が現れます。そのため、前日の夕食で何を食べたかわからなくなったり、大切な約束を忘れてしまったりします。その一方で、昔の記憶は比較的よく保たれています。

年相応でないもの忘れはあるものの、日常生活には支障をきたしていない状態を「軽度認知障害」といいます。軽度認知障害のある人の全員がアルツハイマー病に進行するわけではありません。しかし、診断されてから3年の間に3～4割の人が進行すると考えられています。そのため、軽度認知障害があれば、必要に応じて進行を抑える治療を開始することが大切だと考えられています。

早い段階で対応を始めるためには、本人の自覚だけでなく、家族など周囲の人が年相応でないもの忘れなどに気づくことが重要です。

・アルツハイマー病の検査

・問診

どのような症状があり、生活への支障がどの程度あるのかなどの点を聞かれます。このとき本人だけではわからないこともあるので、必ず家族が付き添うようにしてください。

・認知機能テスト

場所や時間を把握する能力や記憶力を調べるために認知機能テストが行われます。例えば、以下のような質問がされます。まず「ボール・旗・桜」という3つの名詞を覚えます。次に100から順に7を引いていく計算を5回ほど繰り返します。そのあとに先程覚えた3つの名詞が何だったかと尋ねられます。初めに名詞を覚えてからここまで、わずか2～3分です。しかし、アルツハイマー病では少し前のことを記憶するのが困難になるため、名詞を思い出せなくなるのです。

・画像検査

MRI(磁気共鳴画像)やSPECT(単一光子放出コンピュータ断層撮影)で脳の形や脳梗塞の有無、脳内の血流の状態を調べます。



・アルツハイマー病の治療

今まで、日本で使うことのできるアルツハイマー病の治療薬は1種類だけでした。しかし、今年3月新しい薬が販売されました。また、他にも2種類の薬が承認申請を行っており、新たに使えるようになる見込みです。

ただし、これらの薬はいずれも症状が進行していくのを遅らせる働きを持つ薬で、アルツハイマー病を根本的に治す薬ではありません。そのため、アルツハイマー病の治療ではなるべく早い段階から薬を用いることが重要です。病気が進行して神経細胞が死滅していくと、効果があまり期待できなくなるからです。早期から治療を始めるためにも、少しでも疑わしい点があれば、早めに受診しましょう。

・アルツハイマー病の治療薬

アリセプト(ドネペジル)、レミニール(ガランタミン)、メマリー(メマンチン)、リバスタグミン

※ 当薬局での取り扱い薬はアリセプトです

参考文献:「NHK きょうの健康」2010年10月号

どこの病院・診療所の処方せんにも対応できます。

(お薬によっては時間がかかることがあります) あすなろ武川薬局

TEL 0551-26-3800

FAX 0551-26-3810